（様式１）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 　地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念あり「明るくゆったりとした気分で和やかに安心できる暮らし」		
2	○理念の共有と日々の取り組み 　管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールに理念を掲げ、毎月理念に基づく運営方針を話し合っている。	○	毎朝の朝礼で声を出して読みあげる等、スタッフ全員に浸透しケアに生かしていけるようにする。
3	○家族や地域への理念の浸透 　事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族へは入居時に説明を行うようにしている。 ホームの誰もが見える位置に理念を掲げ、運営推進会議等を通じて、地域の方々へも理解していただけるよう努めている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 　管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝夕の挨拶や、食材の購入・床屋など、近所の店を利用し、顔なじみになるように努めている。 ホームの玄関が重厚感があり入りにくい雰囲気である為、できる限り開放しておくようにしている。	○	立ち寄りやすい雰囲気作りを検討中
5	○地域とのつきあい 　事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、地域の行事にも参加していけるように検討しているが、夜間の行事が多く参加できていない。地域で買い物する等、交流に努めている。	○	地域・家族の協力を得ながら、地域へ出て行けるようにしていきたい

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 　利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない	○	災害時の一時的避難場所として地域高齢者に活用してもらう事が出来ないか検討中
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 　運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目を確認しながら、自分達が取り組んでいかなければならない方向を再確認している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 　運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	７月までに３回実施している。地域の方々から良い意見を頂きありがたく思っている。1つ1つ活かしていけるよう実践中。		
9	○市町村との連携 　事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者はその都度異なる為、行き来する機会はないが、疑問等が生じた場合は行政に電話で確認したり、各種手続きには必ず出向いて顔なじみにはなっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 　管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実践者研修・管理者研修以外は研修の機会はない。知識が不足していること、また家族関係も良い事から、必要性は現段階ではないと思われる。	○	研修の機会を重ね、制度についての知識の習得が必要
11	○虐待の防止の徹底 　管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事務所にポスターを掲示し、意識を高め防止に努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 　契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくり時間をとっていただくよう事前に家族に話し、っ契約に関する説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 　利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話をゆっくり聞く機会を設け、家族にも訴えの内容を確認するようにしている。	○	苦情処理に関する県の研修を受ける予定
14	○家族等への報告 　事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求時に「今月の様子」と題して、本人の日々の様子・健康状態等を報告している。金銭管理も同時に出納帳をコピーして報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 　家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員・家族に苦情担当窓口を設け、苦情を受けている。契約時、または必要時には県の苦情窓口をお知らせしている。苦情に対しては、会議等で皆で振り返り改善に努めている。	○	苦情処理に関する県の研修を受ける予定
16	○運営に関する職員意見の反映 　運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月施設長を含めての会議を設け、意見交換を行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 　利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の入れ替わりが多く、不安を抱いている利用者・家族もおられる。基準以上の職員を配置しているが、充分なケアが利用者全員に行き届いているとは言いがたい。	○	職員の補充・職員の育成に力を入れる。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護に関わる職員は大体３年程度で退職する傾向があるので、なるべく長く勤めてもらえるよう努力している。人間関係のトラブルはあっても、介護に対する熱意は皆一緒なので、チームワークを強固し、退職者を少なくするようにしている。	○	系列の病院・特養との人事の交流が図れたらと考えている。
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間、、また運営推進会議で入所者のご家族や近隣の住民の方々の意見を聴くようにしている。	○	職員の質の向上はグループホームの運営上不可欠なので、日常の業務の中では勿論のこと、介護福祉士やケアマネ等の資格を取らせることが励みになると考える。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区でのグループホームネットワークは存在しているが、相互の訪問は無く、総会で講演会があるだけなので、これが充実してくれば職員の知識の向上・意識の高揚が期待できると考える。	○	可能であれば、他のグループホームの見学・研修会に参加したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	女性にとっては過酷な職種である為、忘年会・ビアガーデン等で忌憚のない意見を聴いたりしている。	○	職員の意見を聴く機会を更に増やしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	諸般の事情で長期に欠勤する職員がいても、残りの職員で気持ちよく交代できるように体制を整えている。病欠の職員でも可能な限り待つようにしている。	○	研修会への参加を推進し、職員全員が職務のレベルアップができるよう取り組んで行きたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅やデイへ出向いたり、ホーム見学だけでなく一泊体験をしていただくことで、ゆっくりと会話が出来る機会を作っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 　相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームの見学はいつでも自由にできるようにしている。在宅での不安・入居後の不安等、時間をかけて家族の話を聞くよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 　相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅のケアマネージャーを通して来られるケースがほとんどである為、居宅サービスで限界を感じてホーム入居を検討されている。その経緯も確認した上で、在宅でのメリット・入居する事により起こり得る危険性等も説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 　本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅・デイ・入院先等何度も足を運び顔馴染みとなってもらえるよう努めたり、見学時に他の入居者と一緒にお茶を飲んでもらったり、一泊体験を通して馴染んでいただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 　職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	それぞれの得意分野を把握し、調理方法を教えてもらったり時には高齢者への接し方のアドバイスをもらう事もある。長い人生経験を生かしてもらえるような働きかけに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 　職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態は面会時に家族に報告している。必要時には電話連絡を取り、時には受診等に同行してもらえるよう依頼する事もある。家族の協力が欠かせないことを契約時には伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 　これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間・外出・外泊等の制限はせず、いつでも家族間交流が図れるようにしている。面会時には家族と職員間の情報交換にも努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 　本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた家や行きつけの店、昔よく通った道等、受診の帰りの時間を利用して出かける機会を作っている。全ての利用者に対して実施できてはいない。		
31	○利用者同士の関係の支援 　利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なかなか皆の中に入っていけない利用者もいるが、職員が間に入り、コミュニケーションが図れるように努めている。毎朝皆で輪になり体操や歌を歌うことも、その日のそれぞれの表情が目に入り良い交流の場となっている。利用者同士の会話も増えてきている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み 　サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された場合は、見舞いに行き状態を確認したり、洗濯物を持ち帰り洗濯している。退所の場合は、居宅のケアマネ等と連絡をとりあい、より良い生活が送れるよう支援している。		
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 　一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から、また可能な場合は本人から、どのような暮らし方をしてきたか情報を得、またホームでの生活の様子を見ながらケアの方針を考えている。		
34	○これまでの暮らしの把握 　一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネ・家族からこれまでの生活暦等の情報収集を行っている。対応方法に困った時など、面会時等を利用し、家族から情報を得、一緒に解決策を検討している。		
35	○暮らしの現状の把握 　一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームの日課はあるが、休息時間の使い方は個々によって異なる為、注意して観察し個々の日課に取り入れるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から希望を聞きケアプランを作成、本人の状態に合わせ職員間でモニタリングし、適宜変更している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。状態に応じ適宜モニタリングを行い、面会時等に家族と共に検討し計画の見直しを行っている。ケアプランへの反映が遅れることが多い為、改善の必要あり。	○	日々の記録・申し送りの時間等を活用し、個々の状態について話し合い、ケアプランに反映させていく。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は「ＳＯＡＰ」を使用し行っている。観察する目、アセスペントする力を養う事を目的としている。記録に追われチーム内ケアに役立てられているかと問われると疑問が残る。	○	記録の方法を検討中。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じ定期的にリハビリに通っている入居者がいる。可能な範囲で要望にこたえられるように努めている。	○	まだ広い視野を持って柔軟な支援が必要と感じている
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な防災訓練・運営推進会議等により、地域の方々の力の偉大性を感じている。	○	自分達からもっと地域へ出て行き、より良い生活ができるよう協力を得ていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービス利用は検討したことがあるが、できるだけホームで対応していきたいと考えている。他のグループホームとの交流を図ったり、協力機関の催しに参加させてもらう等している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホームの概要・アピール点を示し、広報に役立ててもらっている。	○	地域資源の活用や支援策のアドバイスを受ける等、ホームの質の向上の為にも協力を得たい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望でかかりつけを決めている。入居前からのかかりつけ医の継続がほとんどである。新たに専門医の受診が必要な場合は家族に確認をとっている。かかりつけ医とは信頼関係も築けてきつつあり、必要可能時は時間外診療も受けてもらっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医に治療を受けている利用者は少ない。新たに診療を受ける場合は家族と相談している。家族も受診に同行し、専門医から本人の状態の説明を受けてもらうようにしている。	○	認知症専門医に常に相談できる体制が望ましいと思っている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員２名体制。医療面に関しては看護師が対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院に出向き情報を得るように努め、またケアワーカーとも連携をとっている。家族に不安を与えないように、受け入れ態勢も考慮している。入院に際しては認知症状の悪化が考えられる点も考慮してもらうようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	健康状態の悪化が生じた時等は、その都度家族へ連絡し、看護師から家族へ説明、必要時は医師からムンテラしてもらうよう段取りしている。家族が相談・アドバイスを必要とした場合は、気軽に応じられるよう言葉掛けを行っている。	○	重度化した場合の職員の介護力にはまだ不安がある為研修が必要
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族とどのように過したいか話し合い、希望に添えるように努めている。夜間の医療面での不安がある。	○	終末期に関わらず、夜間医療体制に付いて検討中

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・家族の意見を尊重し、グループホーム側と今後ケアに関わる側とで情報交換が出来るようにしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの生活暦を把握し、言葉掛け・対応するように心がけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側からみると問題行動といわれる利用者の行動も、その原因を知る事に努め、対応するように心がけている。	○	認知症介護に付いてまだまだ知識不足である為、研修にどんどん参加し、知識の向上に努める
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々が自由に過ごせる時間は設けているが、それが本人の望む過し方であるとは言えないと思う。集団生活である事を押し付けている部分が大いにある。	○	その日何をしたいか、何を食べたいか等、一緒になって考え実施していけるようにしていく。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で着たい服を選んだり、外出時口紅をつけたり、髪を整えたりとそれぞれの利用者にあった身だしなみやおしゃれが出来るように支援ている。床屋はホームで出張を頼んでいるが、個別に行かれる方もいる。通販を利用し好みの衣類を購入される方もいる。	○	おしゃれの気持ちを持ち続けることは大事な事と考える。ちょっとした外出にもその気持ちを大事にし、支援できるようにしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な利用者には買い物・調理の下ごしらえや下膳・台拭き・茶碗洗い等を手伝ってもらっている。	○	その日のメニューを一緒に考えたり、楽しく食事が取れる雰囲気作りにも心がける。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 　本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ等は職員が利用者の好きなもの・食べやすいものを選び購入している。食中毒に注意しながら持ち込みも許可している。お茶の時間外でもお茶を飲む事はあるが、利用者側からみるといつでも自由に楽しめる状況ではないと思われる。	○	本来楽しめるものである為、押し付けにならないよう、お茶の時間の設け方にも工夫が必要
56	○気持よい排泄の支援 　排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	誘導が必要な方は排泄間隔を見て誘導し、昼間はﾄｲﾚで自立している方でも夜間は安全面を考慮し、ポータブルを使用している方もいる。オムツが外れたり、片麻痺の方が、夜間自分で尿器を使用して排泄できるようになった例あり。	○	常に蒸しタオルを準備し、汚染時やムレがひどい時は清潔が保てるようにしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に毎日行い、入りたいときにいつでも入浴できるようにしている。時間帯は限られている。入浴を好まれない方は、タイミングをみて、また声掛けの工夫をして入浴を促し、清潔保持に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室には本人が使い慣れたものを置き、安心出来る空間をつくるようにしている。布団はホームで準備するが、毛布やタオルケット等は本人用を準備してもらっている。温度・湿度調整も行っている。	○	興奮してなかなか寝付けないこともある。職員が夕方の時間の過ごし方、接し方が夜間の睡眠に影響を及ぼすことをもっと理解して支援していけるようにする。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクレーションをしたり、公園で昼食を摂ったり、散歩に出かけたり、花見等に出かけるなど行っている。洗濯物を畳む事が役割となっている方もおられる。役割・生きがいを持って過ごして頂きたいと考えるが、その日その日を無事に過すのがやっとである感もある。	○	一年以上一緒に生活してきてもまだまだ利用者の事は知らない事が多い。生活暦を生かせるような働きかけができるよにしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 　職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方は居室にいくらか持っておられるが、基本的には預かり金としてホームで預かり管理している。個々の財布があり、欲しい物がある時は一緒に買い物に出かけることはあるが、支払いは職員が行うことが多い。	○	ホームの食材の買い物には利用者もよく一緒に出かけるが、本人の買い物の機会は、「○○を買ってきて」と言われるまではほとんどない。機会作りが必要。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
61	○日常的な外出支援 　事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診の帰りに自宅に寄ったり買い物をする事はある。また天気にもよるが、散歩に出かけることも多い。しかし、時間帯や行きたい場所等、職員側の判断による事が多い。	○	一人ひとりの希望に添えられるよう職員がゆとりをもって働ける環境作りを行う。
62	○普段行けない場所への外出支援 　一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたいところを把握できていない。家族との外出はいつでも可能である。年間行事として花見や遠足等、家族も一緒に出かける機会は設けている。		
63	○電話や手紙の支援 　家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話は出来るようにしている。家族から手紙が届いたり、手紙を書いて出される事もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 　家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の制限は行わず、いつでも歓迎している。面会時はホールで過ごされる家族・居室で過ごされる家族とそれぞれである。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 　運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月会議で検討している。安全面からやむ終えない場合は、文書にて家族に了解を得ている。夜間職員が一人になる時間帯に限られている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 　運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が一人になる夜勤帯の時間のみ鍵をかけている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 　職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒の危険性、一人で戸外へ出て行かれる危険性（交通量が多い・玄関先がスロープ上）がある為、常に利用者の所在は把握できるよう職員が声を掛け合っている。	○	玄関先に出るとチャイムがなる仕組みになっているが、充分活用できていない。敏感に対応できるようにする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 　注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は利用者の手の届かないところ・戸棚の中にしまうようにしている。また職員が一人になる時間帯は、包丁を置く箇所は鍵をかけている。	○	歯磨き粉等用途が理解できる方には使いやすい場所に、理解できない方には安全な箇所に保管できるよう保管場所・方法の検討が必要。
69	○事故防止のための取り組み 　転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤリ・ハット」「インシデント」レポートを書くことで、どのような危険性が潜んでいるか、どのような対応方法が望ましいかを皆で考える機会を設けている。防災訓練は2回/年実施。	○	８月末に防災訓練実施。反省点があり改善中。誤嚥防止に誤嚥防止体操の実施検討中。
70	○急変や事故発生時の備え 　利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルは作成している。日中は看護師が勤務しており、夜間も看護師に連絡がとれる体制をとっている。	○	応急手当の訓練・講習を受けるよう日程を検討中。協力医の医師に常に利用者を把握してもらい緊急時の対応がスムーズに行えるよう往診の実施を検討中。
71	○災害対策 　火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を定期的に行い、避難の方法を訓練している。運営推進会議にて近隣者にも協力が得られるよう依頼。防災訓練には町内より参加をしてもらっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 　一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こりうる危険性については家族に説明している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサイン測定、日々全身状態の観察に努め、異常時は受診している。夜間の急変を防ぐ為に、看護師の判断のもと、なるべく日中に受診し、夜間の対策を講じている。	○	看護師全員が両棟の利用者を把握できるよう検討中
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の仕分けは看護師が行っている。内容の把握は全職員が出来ているとは言えない。	○	全職員が与薬する事への責任感を持ち、薬の説明書をみる癖をつけ、把握に努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排泄チエックをして排尿・排便の回数等の確認を行っている。排便状態に応じて看護師の支持のもと緩下剤を抜く・下剤を追加する等行っている。職員も牛乳を飲んでもらう・歩いてもらう・腹部マッサージを行う等実施している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。その方の状態に応じて歯磨き・うがい等必要な方には介助を行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分チエックを行っている。チエック表を参考に水分補給を行い必要量確保できるように努めている。栄養面はカロリー計算は行っていないが、肉・魚・野菜と多くの食材を使用し栄養が摂れるよう努めている。個々が食べやすい形態で準備している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染予防対策委員会を設置し、委員を中心に会議にて予防対策を講じている。疥癬は感染予防マニュアルあり。インフルエンザは利用者・職員全員予防接種を受けている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
79	○食材の管理 　食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は小まめに買い物に出かけ、消費期限を確認し早めに使い切るようにしている。また梅雨・夏場は生ものは使用せず、完全に火を通すようにしている。調理用具は、１回/週は衛生管理日を設け消毒を行い、冷蔵庫の衛生にも努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 　利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夜間以外は鍵をしていない為、いつでも自由に出入りでき、チャイムやセンサーで来客が確認でき職員が素早く対応できるようにしている。玄関周りが重厚で、慣れない人は入りにくい雰囲気であると思われる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 　共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から日が差し込みまぶしい時間帯がある。その時間は移動をしている。季節の花を飾るようにしているが、切らしてしまう事もあり。カラオケをすることがあるが、大きな音を嫌う人もいる。	○	天窓にフィルムをはりロールカーテン設置の工事中。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 　共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係をみながら、席替えを行いトラブル防止に努めている。席・ソファーの位置は、本人が落ち着ける位置が決まっている。一人でゆっくりしたい時は居室で過ごされていることが多い。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れたものを持ってきていただき、安心して過せる空間作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 　気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定時的に換気を行っている。ホールに温度計・湿度計を取り付け温度・湿度調整を行っている。	○	居室によって温度が違うため、各居室に温度・湿度計設置を検討

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 　建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所に手摺を設置している。車椅子利用者がいるが、車椅子で自由に動き回るにはホール内は狭く、ﾄｲﾚ・居室の出入り口も狭い。	○	利用者の状態に応じ、適宜必要が出てきたら手摺の設置や家具の配置の検討を行う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 　一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	環境を変えることは高齢者には良くないと言われているが、生活しやすい場所・安全な空間を作るために、家具等の位置を移動する事もある。職員の対応で混乱することなく慣れていかれる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 　建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭・ベランダがなく玄関前の通りは交通量も多い為、職員と一緒に散歩に出かけることは多いが、利用者が一人で楽しめる戸外の空間はない。	○	庭や土いじりが出来にくい環境である為に、天候をみて近くの公園へ出かける機会は多い。プランタを使用して野菜作りを試みるも育てられず。再挑戦する。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　　目			回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	③
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	①

項　　目			回答
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない	②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	③
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

「明るく楽しく和やかに」をモットーにホームを運営している。試行錯誤の連続ながら、職員全員が目標に近づきつつ、また利用者・家族との絆を深めつつある。年間行事として季節ごとの花見やみかん狩り・運動会、その他にも、散歩や、利用者と一緒に買い物に出かけたり、近くの公園へ弁当持参で出かける等、外出の機会も増えてきている。月に１回は、職員・利用者全員で、買い物に出かけ昼食作りをする日を設け、利用者にとって楽しみな時間・経験を活かせる機会が増えるよう努めている。